



1 社会資本の概要

「備中とと道トレイル」とは、明治から昭和初期にかけ、瀬戸内海沿岸の笠岡市・金浦から新鮮な魚を吉備高原山中の吹屋まで、屈強な魚仲仕(うおなかせ)が一人40kgほども担ぎ、夜掛けのリレー方式で12時間で運んだ南北約60kmにわたる山道です。近代化によりこの道は使命を終え、森の中に60年ほども放置されていましたが、「備中とと道トレイル推進協議会」の前身団体や地元の個人らによる2年に

渡る膨大な作業の末、2017年に1本の道として同定しました。この復元した道を「歩く遺産」として後世に残すため、毎秋の草刈り、沿道の歴史、文化、自然に触れるトレイルウォーク大会の開催や地元の学校での出前授業、道標整備、ガイドブック、各地の歴史や文化を深掘りした見聞録の発行等多様な活動を展開しています。沿道地域の歴史文化や暮らしの記憶を発掘し、未来への継承を目指しています。



金浦の海から 屈強な魚仲仕により とと道・窓坂をたどり 吹屋へと鮮魚を運んだ60kmの古道

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

2016年の夏、現在の事務局担当宛にとと道の南部ルートコースについての問い合わせがあり、地元の郷土史研究家に照会したところ、既に2008年以来調査を続けていることを知りました。以後、各地の郷土史家を糾合しつつ調査を重ね、2017年に埋もれていたとと道を発見、一本の道として同定することができました。2018年には一般募集をして第1回備中とと道トレイルウォーク大会を実施、以来、今までに42回を重ね800人近い方に歩いていただ

きました。この間に当初の開発に関わったメンバーを中心に正会員と賛助会員からなる「備中とと道トレイル推進協議会」を結成、会員数は現在では200名ほどになっています。ウォーク大会を機会に地元備中の歴史や文化にじかにふれられることから関心を寄せる参加者も多く、郷土愛の醸成、civic prideの喚起等のために今後ともとと道を維持し、分りやすく充実したガイドを続けたいと思っております。



ウォーク大会の様子

旅人のための四つ堂

とと道コース特定の決め手となった道標

3 活動の成果や波及効果等

とと道のコースは時に地元のお大師さま88ヶ所巡りの参拝道と重なるケースがあります。このため、とと道の草刈の折にはこうした重複する場所の草刈にも務めています。この活動に触発されたのか地元の方が逆にとと道部分を掃除して下さる様なケースも起き、地域の活性化に少しばかりお役に立っていると思えます。

また、一部行政ではとと道を埋蔵文化財と認定し、草刈等整備活動への助成制度を適用するようになりました。また、小学校へのお出前授業を開始していますが笠岡の金浦小学校では秋の学習発表会で30分に渡るとと道紹介劇を製作発表し、子ども達の関心の深さを知らされました。こうした動きを一過性のもとするのではなく、将来へ向けて継続できるよう務めています。



倒木撤去 ユンボ大活躍 急坂草刈



道標作り 道標設置 窓坂とと道ウォーク



小学校の出前授業 学習発表会

喜びの声



受賞者
備中とと道トレイル推進協議会
3代目会長
(下段左端 塩田宏之)

コメント

昨年の夏、この賞の存在を知った機会にこれまでの事業をレビューし、2016年以来、正に手づくりでやって来たことを改めて実感しました。それが賞までいただくとは思いませんでしたが、より多くの方がこの道を歩き、走り、将来に向けて維持し、伝えて行くための大変大きな支えになると期待しております。

活動の内容

- ①備中とと道トレイル(略称とと道)の整備、維持
- ②とと道の広報活動
- ③とと道ウォーク等の企画、実施
- ④とと道沿道の学校児童・生徒、へのとと道紹介
- ⑤とと道ガイドの育成

活動の経歴

- 平成28年(2016)6月:とと道調査開始
- 30年(2018)1月:第1回とと道ウォーク実施
- 令和2年(2020)7月:備中とと道トレイル推進協議会設立
- 5年(2023)3月:成羽小学校とと道出前授業実施
- 6年(2024)2月:夢街道ルネサンス認定
- 6年(2024)2月:日本ユネスコ連盟未来遺産登録
- 7年(2025)3月:南部地区再開発実施
- 7年(2025)11月:矢掛町 末永三喜太賞受賞
- 7年(2025)12月:国土交通大臣「手づくり郷土賞」受賞

所在地

備中とと道トレイル:
岡山県笠岡・金浦～高梁・吹屋 60km

活動主体及び連絡先

再開発主体:備中とと道トレイル推進協議会
HP:<https://www.totomichi.com/>
mail: info@totomichi.com

対象となる社会資本

かつてのとと道(笠岡・金浦～高梁・吹屋)



とと道全地図



とと道空撮5分